

はじめに

最近、**GAP**という言葉をよく耳にすることがあると思います。

Good Agricultural Practice の頭文字をとったもので、日本では、農業生産工程管理、または適正農業規範と呼ばれています。

グローバルGAPは世界中で最も幅広く取組まれている国際標準です。

海外においては国際標準に基づく農業生産活動が、私たちの想像以上に重視されています。

欧米のみならず、アフリカ、アジア、南米などグローバルGAPの認証経営体数は既に124カ国で17万を超えています。(2016年末現在)

2020年に控えている東京オリンピック・パラリンピックへの食材供給、海外からの訪問者に国際標準に基づく安全な農産物＝食品を供給しようということであれば、グローバルGAPはおもてなしの心の示し方として大切な取組みと言えます。

もちろん、東京オリンピック・パラリンピックの後も、海外からの訪日客へ日本食材の素晴らしさを伝えるとともに、一歩進めて海外への農産物の提供＝輸出促進ということでも、グローバルGAPは重要な取組みです。

しかし、私が最も皆さんにお伝えしたいのは、経営改善という視点からのグローバルGAP活用法です。

まずはグローバルGAPというものを知っていただき、新しい日本農業の扉を開けて欲しいと思います。

日本農業は危機的状況にあると言われていますが、果たしてそうでしょうか？

私は、日本農業には大きな可能性が秘められていると思っています。

ものの見方を変えるだけで状況は大きく変わっていくのです。

日本農業には輝かしい未来が待っている！ 私はそう信じています。

2017年5月吉日

横田 敏恭

目次

第1章 GAPとは.....	4
1. GAPの基本.....	4
2. リスクを小さくするための取組み.....	6
3. 日常的取組み.....	7
4. 第三者による評価.....	8
5. 日本のGAPの現状.....	10
第2章 グローバルGAPの特徴.....	14
1. 国際標準.....	14
2. 厳格な第三者認証.....	17
3. 「なぜ？」を考える.....	18
4. グローバルGAPのメリット.....	22
5. グローバルGAP認証取得の前に.....	23
第3章 グローバルGAP認証の取得に向けて.....	25
1. グローバルGAP認証取得までの流れ.....	25
2. 認証取得に向け最低限行うべきこと.....	26
① リスク評価を行う.....	26
② 記録を残す.....	27

③	チェックリストに目を通す	30
④	グローバルGAP規格の中身を理解する	39
⑤	一つの対応で管理点をまとめてクリア	40
第4章 認証取得に向けた具体的取組み		44
1. 個別認証の取得		44
①	最初の一步	44
②	記録と保管	45
③	審査とコスト	46
④	審査結果と対応	48
2. グループ認証の取得		50
①	個別認証との違い	51
②	内部検査員、内部監査員	52
③	グループ全体の最初の一步	54
④	審査とコスト	55
⑤	グループ認証のメリット、デメリット	58
3. 認証の維持・継続		60
4. グローバルGAP認証取得者からの声		61

第1章 GAPとは

1. GAPの基本

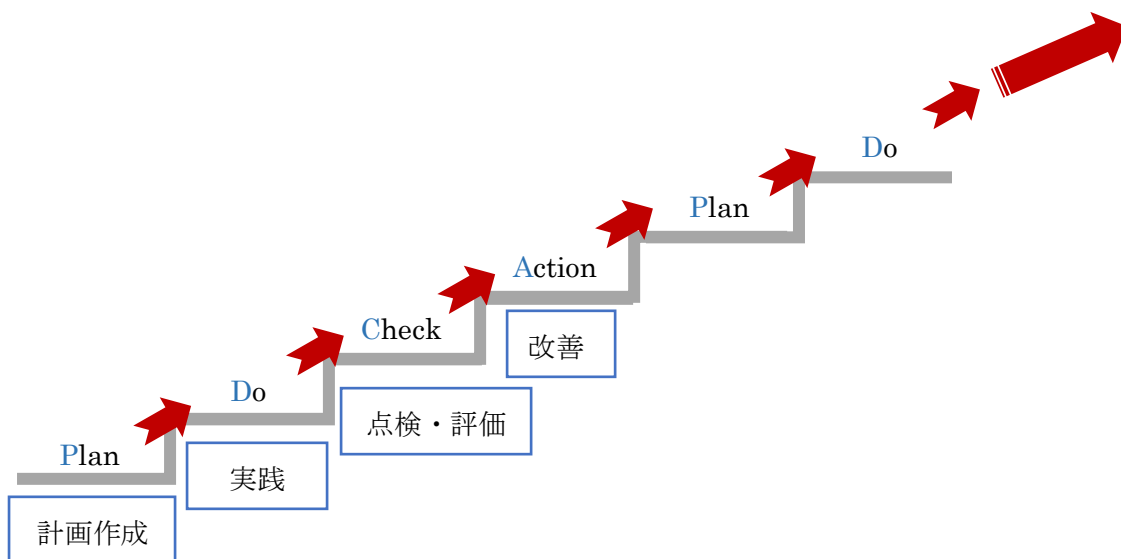
GAPとは、**G**ood **A**gricultural **P**racticeの頭文字を取ったものです。

日本では、農業生産工程管理とか適正農業規範と呼ばれており、農業生産現場における継続した改善活動として取組まれています。

これは、**PDCA**サイクル、つまり

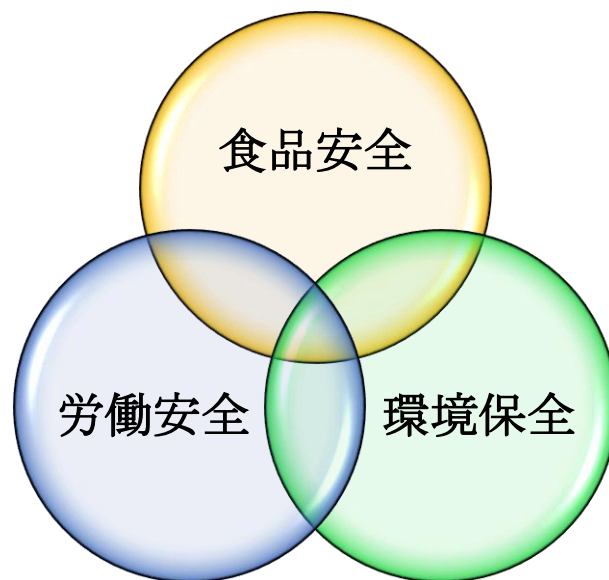
P(Plan=計画作成)→**D**(Do=実践)→**C**(Check=点検・評価)→**A**(Action=改善)を回していくということであり、経営者も従業員も自分たちの頭で考えて、改善活動を続けていくことです。

GAPにおいては、取組むべき事項がチェックリストとして整理されており、きちんと取組まれているかどうかということの確認が行われていきます。



【GAPの3本柱】

GAPは、食品安全、労働安全、環境保全の三本柱で構成されています。
(これに人権保護を入れて、4本柱とも言います。)



食品安全

- ・農産物の微生物による汚染の低減
- ・残留農薬基準の遵守 等

労働安全

- ・農作業中の事故の回避
- ・熱中症予防の徹底 等

環境保全

- ・地下水への影響に配慮した肥料の使用
- ・農業生産で生じた廃棄物の適正な処理 等